

学生大使 実施報告書

氏名:石毛 翼

学部・学科(コース)・学年:工学部化学バイオ工学科応用化学・化学工学コース 2年

派遣先大学:ガジヤマダ大学

派遣期間:2025.2.26~3.12

1 日本語教室での活動内容

日本語教室は平日の10:00~11:30と13:30~15:00に行った。授業は1人あたり2~3人を担当することが多かった。受講生に対して山大生が多い場合は、2人でグループ授業をするなど臨機応変に対応した。受講生の日本語のレベルはさまざまであったため、初級者・中級者・上級者に分けて授業を行った。

初級者にはひらがな、カタカナを中心に教えた。具体的には、持参した50音表のひらがなを指差して、私が発音したあとにリピートしてもらい、書き順を示したあとにノートに実際に書いてもらった。この際、正しい書き順で書けているか確認しながら授業を進めた。また、50音表の各ひらがなの下には単語が載っていたので、読み方と意味も説明した。カタカナについても同様に行った。

中級者には漢字を中心に教えた。小学校で習う簡単な漢字を「とめ」「はらい」「はね」を意識して教えた。ひらがな、カタカナよりも格段に画数が増えるため、正しい書き順で書くのに苦戦する受講生が多く見受けられた。その際には、一緒に漢字を書いて書き順を確認したりした。

上級者には会話表現を中心に教えた。具体的には、持参した会話帳の中で受講生が気になるカテゴリーを選んでもらい、そのカテゴリー内でよく使う表現をいくつか教えた。単に文を丸ごと暗記するだけでは理解が不十分になってしまうので、日本語の文と英語の文を比較して対応している部分を丁寧に説明しながら授業を進めた。

90分間と比較的長い授業時間であったため、最後の20~30分はアクティビティの時間にした。折り紙でツルと一緒に折ったり、「指スマ」で遊んだり、アニメ、マンガなどの話をした。彼らの日本文化への理解は想像よりも深く、すでに知っていたりできたりする人も多かったのが驚いた。

文化交流の時間には、折り紙、カルタ、習字、けん玉、あやとりの5つのセクションに分かれて日本文化の紹介を行い、私は習字のセクションを受け持った。受講生には書きたい漢字を各々書いてもらい、私はそのサポートをした。慣れないながらも自分の思うように漢字を書いていて、個性が現れていたのを見てとても楽しかった。

2 日本語教室以外での交流活動

朝食はゲストハウスでビュッフェ形式であった。食べるスペースには、いつも同じ猫がいて癒やされながらご飯を食べた。昼食は大学内の学食で、夕飯はバディたちが店に連れて行ってくれた。インドネシア料理を食べて感じたことは、日本料理と比べてかなり辛いということだ。私は辛い料理があまり得意ではないが、せっかくなのでサンバルというソースをチキンにつけて食べたところ、あまりに辛かったのでたくさん水を飲んで和らげた。また、インドネシアの飲み物は基本的に甘いので、レストランで注文

【学生大使 実施報告書】

する際には欠かさずノンシュガーと伝えていた。

休日にはいろいろな場所を訪れたり、活動を行った。

1 つ目はボロブドゥール寺院である。教科書の写真で見たことはあったものの、思っていたよりも大きかった。階段を上ると、釣り鐘型の仏塔があちこちにあった。隙間から中をのぞいてみると、仏像が入っていた。首のない仏像もあったが、それは他の国の人を持って行ってしまったからであると聞いて驚いた。

2 つ目はバティックづくりだ。自転車であぜ道を通して 15 分ほどかけて向かった。自転車に乗っているときは風を感じられて、心地よかった。バティックづくりは、現地の人のお手本を始めに見たのだが非常に細かくて、不器用な私がうまくできるのか不安になった。実際にやってみると、案の定難しかったが自分なりに模様を描いてみて、個人的には満足のいくものができたので良かった。

3 つ目は伝統芸能の「ラーマーヤナ」である。独特な音楽とともに演技は進行していき、アクロバティックなシーンもあった。終盤には演者の周りに花火が舞うシーンがあってとても迫力があり、またいつか見たいと感じた。

4 つ目はゲンビラ・ロカ動物園だ。個人的に動物園に行くのは、小学生以来だということもあってかなり興奮した。この動物園の敷地は広大であり、多種多様な動物を見ることができた。特に印象に残っているのは、鳥への餌やりである。取っ手のついている餌の入った皿を持って、鳥のいるコーナーに入るとすぐにカラフルな鳥が飛んできて、私の手にとまって餌を食べ始めた。幸い、鳥の爪は痛くなかったが、途中から私の腕を餌だと勘違いし始めて、つついてきたので少しくすぐったかった。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の参加目標への達成度は 80%である。私の中の目標は、分かりやすく楽しい授業を行うことであつた。去年行った学生大使での反省を生かして、今回はしっかり準備をして臨んだおかげで円滑に授業を行うことができた。特に 50 音表、会話帳、折り紙が大いに役に立った。残りの 20%は、私の英語能力の至らなさによるものである。

努力した内容としては、積極的に現地学生とコミュニケーションを取ったことである。普段はあまり自分から話しかけないのだが、自分を変えたかったのでいろいろな人に話しかけて会話をした。実際に話しかけてみると、現地学生も快く話してくれるので会話をするのが楽しみとなっていた。

4 プログラムに参加した感想

学生大使に参加するのは今回で 2 回目なのだが、前回参加した国と違かったので新鮮かつ貴重な体験が数多くできた。気候の違いや疲れから、後半は体調を少し崩してしまったが何とかやり遂げられてよかった。このプログラムを通して、たくさんの仲間とかけがえのない経験ができたので参加した意義が大いにあったので、また参加したいと思った。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回の経験を踏まえて、海外への興味がより深まったので、もっと他の国にも訪れて現地の人と交流したいと思った。しかし今回、私の英語力の至らなさを痛感させられたので、自分の英語力をより磨き上げる必要があると感じた。よって、今後も英語が上達するように努力を継続していきたい。また、こ

【学生大使 実施報告書】

のプログラムに参加したように新たな事への挑戦も続けていきたい。

6 現地での活動写真

写真1

ボロブドゥール寺院での集合写真



【学生大使 実施報告書】

写真2

カラフルな鳥への餌やり



写真3

自分の作ったバティックを持って撮影



【学生大使 実施報告書】

写真 4

いつも授業に来てくれた受講生からのプレゼント

